

ダムをつくる

ダムがつくられる流域には、水害や渇水など災害に見舞われてきた歴史があります。二度と同じような災害が繰り返されないようにという人々の願いが根底にあって、その上で地権者など関係者の合意や関係機関の協力が得られて、事業が進められることとなります。香川県観音寺市の五郷ダムと愛媛県宇和島市の須賀川ダムについてお伝えします。

■五郷ダム (香川県観音寺市)

昭和 20 年 (1945) 10 月 8 日、阿久根台風により、柞田 (くにた) 川の沿岸では家屋の浸水や田畑の冠水により多大な被害をこうむり、洪水調節について抜本的な対策が望まれるようになりました。また、柞田川に依存する耕地には多くのため池、横井、出水、無数の井戸が点在し、かんがい用水を賄うことは容易なことではありませんでした。このため、香川県は観音寺市、大野原町、豊浜町の 1 市 2 町 (いずれも現観音寺市) を受益地域として、柞田川総合開発事業を計画し、上流の前田川に洪水調節及び流水の正常な機能の維持増進を図るための五郷ダムを、昭和 36 年度から昭和 39 年度にかけて建設しました。堰堤上の記念碑には、ダム建設に伴い水没した家屋や土地があったことなどが記されています。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000 年など>



■須賀川ダム (愛媛県宇和島市)

昭和 42 年 (1967) 夏、宇和島地方は 80 年来の異常な干ばつに見舞われました。干天日数が 100 日にも及び、1 日 3 時間給水という状態となり、人々は生活用水の涸渇と農作物の干害に悩まされました。宇和島市では、昭和 43 年 2 月に宇和島市水系調査委員会を設置して水源確保に奔走し、市内では須賀川水系以外に取水する適地がないとの結論に達し、須賀川ダム建設について国、県に陳情を続けました。この結果、須賀川総合開発計画の一環として、洪水調節、不特定用水の確保、上水道用水の供給を目的とする須賀川ダムの建設が決まり、地元柿原地区の人々の理解と協力を得て、ダム本体工事は昭和 49 年 7 月に着工、昭和 51 年 3 月に工事が完成しました。ダムの完成により、断水の不安と悩みが解消され、宇和島市民はその恩恵を受けることになりました。<宇和島市企画開発課編「水をもとめて 須賀川ダム建設事業完成記念」1976 年など>

